



あとがき



ソチで冬季オリンピックが行なわれています。最高の技術を誇る選手たちが集い、精一杯の演技をする姿には、結果はどうであれ、大きな感動を覚えます。4年前のパンクーバー大会でも、数々の感動がありました。

4年前といえば、本誌『核データニュース』に、変化がありました。それは、それまでシグマ委員会の1グループであった核データニュース編集委員会が、核データ部会の中に置かれることになったことです。その後、新たな編集委員会体制の下で無事に本誌の発行が続けられてきました。それは、編集委員会からの依頼に快く応じてくださった執筆者の方々のおかげであることは言うまでもありません。

4年前は、JENDL-4.0が公開された年でもありました。本号の「JENDL 委員会会合から」には JENDL 開発検討小委員会の議事録が掲載されています。次期 JENDL の目標を決める重要な議論なので、小委員会の結論には注目です。核データの測定・評価・検証の何れの研究活動も、完璧な核データを極めることを最終目標としていると言って良いでしょう。JENDL が「完璧な核データ」を目指して更に充実していくことを期待しています。

中川庸雄 (2014年2月13日記)

日本原子力学会核データ部会
核データニュース編集小委員会

喜多尾憲助 (元放医研)、井頭政之 (東工大)、石川 眞 (原子力機構)、
岩本 修 (原子力機構)、中川庸雄 (元原子力機構)、吉田 正 (東工大)、
渡辺幸信 (九大)、山野直樹 (福井大)、河野俊彦 (LANL)、大塚直彦 (IAEA)、
中村詔司 (原子力機構)、小浦寛之 (委員長、原子力機構) [編集]石橋貞子